

咸臨丸終焉140周年事業に向けて・・・

## 咸臨丸子孫の会総会・慶応大学・オランダ大使館の訪問

期日／平成23年2月5日(土)～7日(月)

平成23年2月、恒例の咸臨丸子孫の会総会が開催された。

本会は7名はJRで一路東京へ。例年になく豪雪の中を出発して、わずか5時間後の東京はポッカポカ陽気。大挙しての総会参加は、今秋開催予定の咸臨丸終焉140周年事業の思いを伝え、多くの方々に木古内にお出でいただきたい一言につきる。

今年の総会会場は、今話題のスカイツリーが眼前に見える処、80名に近い会員が出席。年に一度ではあってももう皆すっかり顔なじみ、挨拶もそこそこいつしかあちこちで談笑の花が咲いている。

それにしても子孫の会の行動力は凄い。小林・小杉氏のリーダーシップもさることながら咸臨丸に対する思いから生まれる団結力なのだろうか。



小林会長の挨拶



富士宮市でのイベント報告



新会員の紹介

懇親会に入り、新会員や全国各地で活躍する様々な方々が紹介される。

私達も140周年の企画を説明させていただいた。「頑張ってネ」「木古内に行くよ」「朗読劇に出たいな」、嬉しい言葉をいただいたとともに、私たちのためだけではなく、咸臨丸のために成功させようとの思いを新たにした。



幹事の藤本氏のご挨拶



本会久保会長のご挨拶



合田氏のご挨拶



勝海舟像前で子孫の会の方々と



## 慶応義塾大学訪問

翌日は少々風は冷たいが、晴天。慶応義塾大学へ向かう。

本古内にもお出でなった慶応義塾創立150周年事務局の岩田氏が迎えてくれる。慶応義塾所有の福沢諭吉や咸臨丸の史料展示のご協力をお願いする。昨年実施した展示会のパネルを全て提供していただけるとのこと、一同大感激。本会の事業の説明を行った後、杉山氏より史料の説明を受けながらしばし歓談する。140周年の関連事業において意義深い史料展開催が可能になった。



慶応義塾との懇談



史料パネルの説明



記念写真

## オランダ大使館訪問

午後はオランダ大使館を訪問。これまで数回咸臨丸子孫の会とともに大使館を訪れたことはあるが、正式に懇談するのは今回が初めて、少々緊張する。

懇談のアポイントメントは、小杉氏を通して日蘭学会理事の加藤栄一先生のお陰であり、当日同席をいただいたことと合わせて感謝の極みである。

日本語が堪能なパルクス氏に、咸臨丸140周年事業を説明し、是非本古内にお出でいただきたいことを要請する。数年前にモンゼル公使が来道した際にサラキ岬に立ち寄られていることも知らされ、「検討させていただく」との返答をいただき、一同再び大感激。記念写真にはオランダ大使にも入っていただき、大使館を後にする。



オランダ大使館



大使館正門前にて



お世話になった加藤栄一ご夫妻



大使館への要請と懇談



東出会長が大使へご挨拶



大使を交えて記念写真

今回の管理丸子孫の会総会、慶応義塾大学とオランダ大使館の訪問は様々な意味で実り多きものがあつた。咸臨丸子孫の会の皆様はもちろんのこと、幾多の人々との出会いによって、私たちは夢に又一步近づいた。それは咸臨丸がつむいだ出会いであるにちがいない。

小さな町のでっかいチャレンジは確かな一歩を踏み出した。